

5. 子どもの描く未来の自分



子どもとは常に未来を見つめて生きる者たちだろう。そしておとなは現在を見つめ、老人はむしろ過去に目をやって生きようとする存在なのかもしれない。その子どもたちが自分の未来にどんな夢を抱き、どう自己形成し

ようとしているか。前章で見てきた子どもの学習ぶりも、こうした未来像との関わりで解釈し分析してゆく必要があるのではなかろうか。

🍊🍊🍊 どんな子になりたいか 🍊

価値の多様化した時代を迎えても、勉強がよくできるという状態は、やはりそれ自体一つの大きな価値ではなかろうか。それが他の価値と比較してどのくらいの重みを持つのか検討してみよう。

調査票には次のような設問を用意した。4つの対になる子ども像（勉強のできる対スポーツが得意、人気のある、勇気のある、手伝いをよくする）を用い、A Bいずれの子になりたいかを選択させた（※1）。

結果は表26に掲げたが、意外にも日本の子は「勉強がよくできる子」より「スポーツが得意」「人気がある」「勇気がある」「手伝いをよくする」子のほうになりたい、との数値が出てきた。これと対照的なのはアメリカで、すべての項目で勉強のできる子のほうになりたい、という結果である。その間でソウルの子は「勇気」を評価し、タイペイの子は「人気がある」「勇気がある」「手伝いをよくする」を評価している。

しかしこの結果はどう見てもふにおちない気がする。そこでアメリカ版の調査票をもう一度見直してみた(※2)。

うかつなことだったが、この訳語は日本版より「成績の悪い」ことにアクセントが置いてあるのに気がついた。日本版では、あまり成績が悪くは比較をするまでもなくなるので「勉強の少し苦手な子」としておいた。と

ころが訳語を見ると、そのニュアンスが抜けている。つまりアメリカの子どもでも、ひどく成績の悪い子ではありたくない、ということなのだろう。その点、中国語ではそのニュアンスが生かされていて、表のような結果になったのかもしれない(※3)。改めて国際比較調査における調査票作りのむずかしさを痛感させられた。

※1 あなたはつぎの2つのうち、どちらのほうの子になりたいですか。
A、Bのうちなりたいうほうに○をつけてください。

1. $\left\{ \begin{array}{l} \text{A} \text{ スポーツはよくできるが、勉強はすこしにがてな子} \\ \text{B} \text{ 勉強はよくできるが、スポーツはすこしにがてな子} \end{array} \right.$
2. $\left\{ \begin{array}{l} \text{A} \text{ 友だから人気はあるが、勉強はすこしにがてな子} \\ \text{B} \text{ 勉強はよくできるが、友だからあまり人気のない子} \end{array} \right.$
3. $\left\{ \begin{array}{l} \text{A} \text{ 勇気はあるが、勉強はすこしにがてな子} \\ \text{B} \text{ 勉強はよくできるが、あまり勇気のない子} \end{array} \right.$
4. $\left\{ \begin{array}{l} \text{A} \text{ 家のてつだいはよくするが、勉強はすこしにがてな子} \\ \text{B} \text{ 勉強はよくできるが、家のてつだいはあまりしない子} \end{array} \right.$

※2 Which type of child would you rather be? (In each pair circle the letter of your answer.)

1. (A) Good at sports but not get good grades.
(B) Get good grades but not be good at sports.
2. (A) Be popular among my friends but not get good grades.
(B) Get good grades but not be so popular among my friends.
3. (A) Be brave but not get good grades.
(B) Get good grades but not be so brave.
4. (A) Help around the house but not get good grades.
(B) Get good grades but not help around the house.

※3 想成為以下每一題A和B中的那一種小孩？請在A和B中自己想成為的那一種小孩的□內打✓。

1. A. 運動非常拿手、但是功課不太擅長的小孩
 B. 功課非常拿手、但是運動不太擅長的小孩
2. A. 非常有人緣、但是功課不太擅長的小孩
 B. 功課非常拿手、但是不太有人緣的小孩
3. A. 非常有勇氣、但是功課不太擅長的小孩
 B. 功課非常拿手、但是不太有勇氣的小孩
4. A. 經常幫忙做家事、但是功課不太擅長的小孩
 B. 功課非常拿手、但是不太幫忙做家事

表26 勉強をめぐる価値観

(%)

[A]			[A]	[B]	[B]
スポーツが得意で、 勉強は苦手	東京・仙台・岡山	男子	72.0	28.0	勉強が得意で、スポ ーツが苦手
		女子	61.1	38.9	
		全体	(66.6)	33.4	
	ソウル	男子	33.2	66.8	
		女子	19.5	80.5	
		全体	27.1	(72.9)	
	タイペイ	男子	53.1	46.9	
		女子	34.8	65.2	
		全体	44.0	(56.0)	
	シアトル・ ヒューストン	男子	38.1	61.9	
		女子	15.6	84.4	
		全体	26.9	(73.1)	
友だちに人気がある が、勉強が苦手	東京・仙台・岡山	男子	74.8	25.2	勉強は得意だが、友 だちに人気がない
		女子	86.6	13.4	
		全体	(80.6)	19.4	
	ソウル	男子	39.5	60.5	
		女子	39.1	60.9	
		全体	39.3	(60.7)	
	タイペイ	男子	60.1	39.9	
		女子	70.4	29.6	
		全体	(65.2)	34.8	
	シアトル・ ヒューストン	男子	33.8	66.2	
		女子	28.8	71.2	
		全体	31.3	(68.7)	
勇気はあるが、勉強 が苦手	東京・仙台・岡山	男子	81.6	18.4	勉強はできるが、勇 気がない
		女子	79.8	20.2	
		全体	(80.7)	19.3	
	ソウル	男子	64.8	35.2	
		女子	49.8	50.2	
		全体	(58.1)	41.9	
	タイペイ	男子	59.6	40.4	
		女子	48.2	51.8	
		全体	(53.7)	46.3	
	シアトル・ ヒューストン	男子	33.7	66.3	
		女子	13.3	86.7	
		全体	23.5	(76.5)	
手伝いをするが、勉 強が苦手	東京・仙台・岡山	男子	63.5	36.5	勉強は得意だが、手 伝いが苦手
		女子	78.8	21.2	
		全体	(71.0)	29.0	
	ソウル	男子	43.2	56.8	
		女子	45.4	54.6	
		全体	44.1	(55.9)	
	タイペイ	男子	53.8	46.2	
		女子	59.3	40.7	
		全体	(56.5)	43.5	
	シアトル・ ヒューストン	男子	18.7	81.3	
		女子	11.9	88.1	
		全体	15.3	(84.7)	

いつまで学校へ行きたいか

次には子どもたちにどの学校段階まで進学したいかを聞いてみた。図3(表27)が示すように、大学進学を希望する者の割合は、日本が61.8%と一番低く、アメリカ、タイペイの順に増加し、ソウルは93.3%と最も高くなっ

ている。しかもソウル、タイペイでは自国の大学ではなく外国の大学への留学希望者もかなりの割合にのぼっている。日本の子どもたちで留学を希望する者はわずか12.8%（大学進学希望者のうち）でしかない。

図3 大学進学希望率

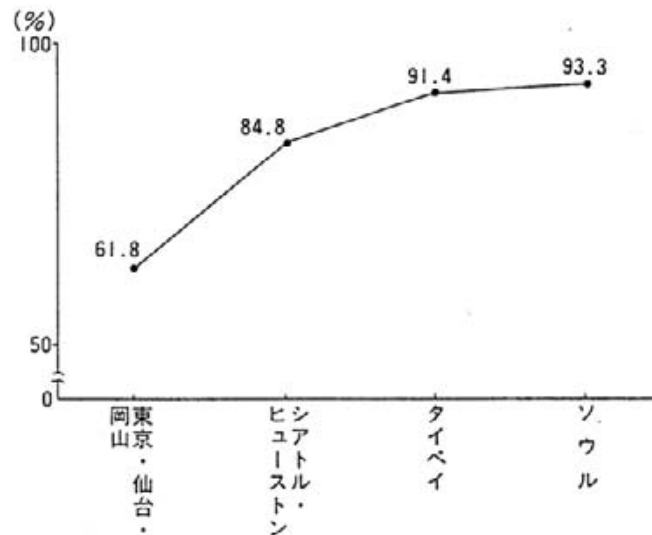


表27 将来の学歴

(%)

	東京・仙台・岡山			ソウル			タイペイ			シアトル・ヒューストン		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
中学まで	3.0	1.5	2.3	1.9	2.4	2.1	1.8	0.9	1.3	5.0	4.4	4.7
高校まで	34.3	37.5	35.9	4.2	5.1	4.6	9.4	5.3	7.3	9.9	11.2	10.5
大学まで	62.7	61.0	61.8	93.9	92.5	93.3	88.8	93.8	91.4	85.1	84.4	84.8*
自分の国で	87.1	87.2	87.2	56.5	51.1	54.0	39.5	37.0	38.2	94.6	92.2	93.4
外国で	12.9	12.8	12.8	43.5	48.9	46.0	60.5	63.0	61.8	5.4	7.8	6.6

*短大を含む

タイペイの場合、香港ほどでないにせよ、中国大陸との関係が微妙で、人びとは将来に不安を抱いている。そうした気持ちが海外の大学へ目を向けさせる背景であろう。また、ソウルでも、一昔前の日本がそうであったように留学の社会的な評価が高く、とくに現在のソウルを動かしている人の中にアメリカで学んだキャリアの持ち主が多い。それにひきかえ、幸か不幸か、日本では海外の大学で学ぶ必要性が少なくなった。そうしたところから「自国の大学で」が87.2%に達したのであろう。

ソウルの場合は、のちにもう少しくわしい紹介をつけることにしたいが、タイペイについても、学歴がものをいう社会で、大学入試を目指して、かなりきびしい入試競争が展開されている。いわば、そうした競争の影が子どもたちの大学進学熱となって表れている印象を受ける。そして、アメリカでは入学しやすく卒業しにくい制度をとっているのと、とりあえずどの子どもも大学を目指すのであろうか。アメリカの84.8%という数値に明るさを感じるが、それにしても、日本の子の数値の低さはどこからくるものだろうか。

🍊🍊 つきたい職業 🍊

さて、子どもたちはどんな職業につきたがっているか。細かい数値は巻末の集計表にまかせるとして表28では、子どもたちがなりたがっている職業を上位4つまで選び出してみた。

まず目をひくのは、国を問わず子どもに人気のある職業が見うけられる点で、男子の「プロスポーツ選手、大会社の社長」、女子の「小学校の先生、デザイナー」がそれに当たる。つまりお国柄を反映するのは残りの2つの職業ということになる。この残り2つに目をやると、表29のようになる。

一口に言って日本の子どもたちのアスピレーションの低さは、どうしてなのだろう。というよりも、日本では、他国の子どもの間に出てきている専門的職業、たとえば「医者、法律家、芸術家、科学者」や「国会議員」のような職業が、なぜ目指されないのだろう。むしろマンガ家やタレント志望が悪いというのではない。それらは子どもらしい夢として、ある割合で子どもたちの間にあっていい。しかし男子女子共に、他国には出てきている「なるのがむずかしいが社会的に尊敬される」職業がまったく上位に顔を出していないのは、なさけない気がする。これは日本では、おとなたちの間にも他国より専門的職業に対する

社会的評価が低いことの現れかもしれない。大金持ち（会社社長）とスター（スポーツ選手、マンガ家、タレントを含めて）という華やかなイメージの職業だけに目を奪われて暮らしているのが、われわれ日本の社会の現状なのだろうか。

なお、表30から表32に学業成績と未来像との関係を示すデータを示してみた。日本の場合、「勉強が好き」と答えている子が大学進学を考えている。それに対しタイペイやアメリカでは、勉強の好き嫌いとは進学との関係はシャープでない。子どもの頃の成績と進学とは関係がないという感覚が、子どもたちの間に定着しているのであろうか。

また、表31の結果でも、タレントやマンガ家を除くと、日本の子どもは成績がよくないとしかるべき仕事につけないと思っている。アメリカやソウルでも、大学教授や社長についてそうした傾向が認められるが、全体としてみると、学業成績の良し悪しによって未来を決める感じが、日本ほど強くはない(表32)。

日本の子どもたちは、学業成績が将来を規定すると信じており、そうした影響がよい成績をとれない＝未来に対する見通しの暗さ＝やる気のなさとなるのであろうか。

表28 つきたい仕事(4位まで)

(%)

	東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン
男 子	プロスポーツ選手 47.1	科学者 56.8	大会社の社長 53.2	プロスポーツ選手 39.4
	大会社の社長 30.0	プロスポーツ選手 43.4	プロスポーツ選手 44.5	法律家 33.3
	マンガ家 22.0	大会社の社長 40.7	マンガ家 42.8	芸術家 26.9
	タレント 18.7	国会議員 38.9	医者 42.5	大会社の社長 25.1
女 子	小学校の先生 49.1	小学校の先生 52.3	小学校の先生 61.3	美容師 43.2
	デザイナー 26.1	芸術家 39.9	芸術家 47.8	デザイナー 32.1
	看護婦 24.5	デザイナー 36.1	タレント 43.6	小学校の先生 30.0
	タレント 24.1	医者 35.9	デザイナー 43.1	芸術家 28.7
全 体	プロスポーツ選手 29.7	科学者 41.0	芸術家 42.5	法律家 34.8
	小学校の先生 29.5	医者 34.3	大会社の社長 41.7	芸術家 28.1
	タレント 21.4	大会社の社長 32.4	タレント 36.5	プロスポーツ選手 27.0
	自分の店を経営 20.3	プロスポーツ選手 32.4	小学校の先生 36.3	医者 24.1

表29 つきたい仕事(国による差)

国	男の子	女の子
日本	マンガ家・タレント	看護婦・タレント
ソウル	科学者・国会議員	芸術家・医者
タイペイ	マンガ家・医者	芸術家・タレント
アメリカ	法律家・芸術家	美容師・芸術家

表30 算数の好き嫌い×将来の進路

(%)

		とても好き	わりと好き	あまり好きではない	とても嫌い
東京・仙台・岡山	中学	9.0	25.4	29.9	35.7
	高校	11.9	31.9	34.3	21.9
	大学	25.3	34.4	26.1	14.2
ソウル	中学	(28.6)	35.7	21.4	14.3)*
	高校	(19.4)	21.0	35.4	24.2)*
	大学	34.6	34.6	19.0	11.8
タイペイ	中学	(20.5)	15.9	50.0	13.6)*
	高校	(17.7)	32.1	36.9	13.3)*
	大学	24.9	30.7	31.5	12.9
シアトル・ヒューストン	高校	(39.5)	10.5	13.2	36.8)*
	短大	40.1	20.6	17.8	21.5
	大学	44.0	27.9	12.3	15.8

*サンプル数が少ないため()を付した

表31 つきたい仕事×成績

(%)

成績	東京・仙台・岡山			ソウル			タイペイ			シアトル・ヒューストン		
	上位	中位	下位	上位	中位	下位	上位	中位	下位	上位	中位	下位
大学教授	11.4	5.0	5.8	35.0	28.4	24.2	37.9	30.5	25.2	8.3	6.6	4.7
大会社の社長	24.4	15.5	18.3	33.9	33.0	28.0	46.9	37.4	25.2	27.6	20.9	15.1
医者	19.2	8.4	6.4	40.1	34.4	26.2	37.2	33.0	37.8	26.3	26.4	17.9
小学校の先生	31.6	31.1	24.9	31.6	33.0	27.9	33.1	36.6	35.9	21.9	17.0	17.0
芸術家	25.6	12.8	10.8	24.6	25.1	23.0	19.3	28.1	29.0	29.4	28.4	28.3
タレント	21.2	21.2	22.2	22.6	27.0	28.7	18.9	7.9	10.1	15.8	12.3	13.7
マンガ家	19.7	17.6	22.8	13.8	18.0	18.9	25.5	19.7	15.1	11.0	11.4	11.3

○は最大値

表32 つきたい仕事×成績

(%)

成績	東京・仙台・岡山			ソウル			タイペイ			シアトル・ヒューストン		
	上位A	下位B	B/A	上位A	下位B	B/A	上位A	下位B	B/A	上位A	下位B	B/A
大学教授	11.4	5.8	50.9	35.0	24.2	69.1	37.9	25.2	66.5	8.3	4.7	56.6
大会社の社長	24.4	18.3	75.0	33.9	28.0	82.6	46.9	25.2	53.7	27.6	15.1	54.7
医者	19.2	6.4	33.3	40.1	26.2	65.3	37.2	37.8	101.6	26.3	17.9	68.1

ソウルの受験勉強

こうした学習意欲の問題については、その社会の学歴構造が影響を及ぼすと考えられる。したがって、数値の背景を理解するには広い視野が必要となる。

ここではそうした一例として、アメリカの場合はかなり知られているので、ソウルの受験事情を紹介することにしたい。なお、タイペイは「ドクソシル」(読書室)はないにせよ、「補習班」が林立し、夜中まで高校生が予備校通いをしている。

学習塾禁止令

ブレテストを兼ねて、ソウルへ出発する前にいくつかたしかめてみたいことがあったが、そのひとつは、学習塾禁止令が韓国の教育にどういう結果をもたらしたかを見聞することであった。

周知のように、韓国では1980年に大統領令を発して、家庭教師や学習塾を禁止する政策を実施している。その当時に試みられた改革の概要は、以下の通りである。

- (1) 中学(現在は義務制でない)と高校への入学は、小学区制をとり、コンピュータを使って総合選抜をする。その際、私立学校も特例を認めず、小学区の中に位置づける。
- (2) 大学進学状況を緩和するため、卒業定員をそのままにして入学定員を2倍とする(当然、アメリカ型の卒業しにくい大学へ、大

学の性格が変わってこよう)。

- (3) 浪人を除き、児童および生徒が家庭教師についたり、塾通いをするのを禁止する。それに違反した家庭や教師、学生は処分の対象とする。なお、ピアノやそろばんなどのけいこごとは、学校長の許可を得て通うこととする。

前回、ソウルを訪ねた1982年は、こうした改革が試みられた直後で、学習塾で教えていた大学教授が逮捕され、親に罰金が課せられたなどのニュースが流れていた。

ソウル大学へ行き、何人かの大学生に、学習塾や予備校の話聞いてみた。中学生時代はむろんのこと、高校へ入っても、毎日夜の11時すぎまで予備校へ通ったという。朝早く、昼と夜の弁当を持って登校する。学校が4時までであるので、教室の片隅で夕食をとり、5時から予備校へ行く。英語と数学を中心に、さらに5～6時間の補習がつづく。夜の12時から外出禁止令が出されているので、掃りはかけ足で帰宅を急いだという。

しかも、近年では受験勉強を始める年齢が低下し、ソウルあたりでは小学校高学年生の半数以上が家庭教師につく状況になった。もっとも、月謝が高いので、数人でグループを作り、どこかの家へ来てもらうかたちが多かったらしい。

そうした教育加熱状況に手を焼いた政府が

学習塾や予備校（浪人生を除く）を禁止する処置に出たのはすでに述べた通りだが、その当時でも、筆者の訪ねた私立高校では、学習塾の代わりに、朝の6時から校内放送を通して、英語や数学の補習を行っていた。つまりよい大学へ入りたいと生徒が望み勉強をしているのだから、学校としてもできるだけ手を貸さなければならない。とくに、学習塾や予備校が禁止されたので、学校は生徒の進学指導にすべての責任を負うかたちになる。そうになると、補習の復活もやむを得ないのかと思っただ。

明け方まで受験勉強

もっとも、前回ソウルを訪ねたときに手に入れた資料によると、1978年度の統計資料では、中学卒の平均賃金は47,000ウォンというから、日本円に換算すると、16,000円程度の月収となる。高卒でも、73,000ウォン(24,000円)程度の収入にすぎない。といっても、家庭電化製品などの値段は日本と変わらないので、生活は決して楽ではない。しかし、大学卒の平均賃金は16万8,000ウォン(56,000円)に達し、職種によってももう少し高い賃金を望めるという。

学歴間の賃金格差が大きく、「大学卒」というレッテルがものをいう社会である。中でもソウル大学出身者は、ハーバードやケンブリッジ以上の値打ちを持つという。となれば大学進学塾が高まるのは当然である。なにしろ、学歴は賃金だけでなく、社会的な尊敬、結婚、家庭生活にも影響が及んでくる。加えて、韓国では徴兵制がとられているので、20歳までに大学へ入っていないと進学が困難になる。そのためなんとか現役で志望大学へ入ろうとする気運が強まってくる。つまり、一浪しか許されていない社会である。そうした背景があるだけに、学習塾を禁止するだけでは問題解決にはならないのではと思っていた。

そして、韓国へ行った友人たちの話を聞くと、ソウルでは学習塾が禁止された代わりに自習室が盛んになった。ビルの一室にいくつ

もの机があり、そこに陣どって生徒たちが勉強しているという。といっても、どの友人もそうした話を聞いているだけで、実際に見た人はいない。それだけに、ソウルへ行ったら自習室をぜひ見てみたいと思った。

ソウルで話を聞いてみると、自習室というのは日本流の言い方で、現地ではドクソシル（「読書室」あるいは「図書室」）というらしい。そして、ターミナルへ行かなくとも、町中にいくつものドクソシルがあるとのことであった。

とりあえず外側を見ることとしたが、ビルの2階や小さな建物にドクソシルがある。日本でいえば、さしずめ学習塾という感じで、大規模で企業的な感じのところがあるかと思うと、小さな家内工業的な設備もある。

そして、ドクソシルを利用しているのは、原則として高校生で、生徒たちは当然のことながら、昼間は学校へ通っている。しかも放課後、教室や図書室で自習するかたちが定着しているので、生徒たちは夜の7時近くまで在籍している。それならばドクソシルなど不要ではないかと思う。しかし生徒たちは、7時すぎにドクソシルへ入り、夜中の1時、そして2時まで勉強をする。生徒によっては、ちょっと仮眠した後、明け方まで受験勉強をして、そのまま学校へ出かけるという。そして、そうしたドクソシルから通学する生徒は決して少数例ではないらしい。

外側から見ただけでは状況がわからないので、ドクソシルの内部を見せてもらうことにした。案内してくれたのは、中流の下位の感じのところだったが、フロアーがベニアで区切られている。開けてみると、畳2枚くらいのスペースに机と椅子があり、マットレスもあるので、仮眠くらいはできる。その他に共有のシャワーがあり、学生版カプセルホテルといえば、ドクソシルの感じをつかめると思う。

もっとも、生徒たちが受験勉強をしているところなので、雰囲気は暗い。それに換気などを考えずに間仕切りがしてあるから、かつ

での万年床の敷かれた学生下宿のようなにおいもして、快適な環境とはいいがたい。

もともと、これは中流の下だから、こうした雰囲気になるので、ソウルの中心街にあるドクソシルはスペースが広く、シャワーも高級、そして、イヤホーンで音楽を聴けたりする設備も、備えているらしい。そうすると、50,000ウォンというから、月額10,000円弱の出費を、覚悟しなければならぬ。中流の下のドクソシルでも、30,000ウォン前後、ほぼ6,000円の負担で、月収が日本の半額程度の事情を考えると、どう考えても安いものとはいいがたい。

大学入試テストを目指して

高校生たちが夜遅くまで勉強した後、自習室に籠もって明け方まで受験勉強に取り組む。

ソウル滞在中に知り合いになった何人かにドクソシルについての考えを尋ねてみた。受験期間は、せいぜい1～2年にすぎない。あとで後悔しないように、全力をあげて勉強すればよい。家にいると、どうしても緊張感に欠ける。だから受験仲間のいるドクソシルで勉強したほうがよい。自分も若い頃にドクソシルを使ったが、青春の思い出の1ページとして、ああいう体験もあってよいのではなにか。

予想外なほどに、ドクソシルについて批判する声がかえってこない。新聞やテレビにもドクソシルをストレートに批判する動きは、認められないという。

そうした意味では、学習塾の禁止がドクソシルという学習施設を生み出したともいえない。

韓国では11月20日頃に、日本の共通一次に相当する大学入試のための共通テストが実施される。日本の場合と異なり私立大学も参加しているので、このテストで何点を取れるかで、どの大学へ入れるかが決まる。それだけに受験生は、このテストを目指して勉強することになるが、現在のところ、国語、数学、歴史、外国語、政治経済など、16科目 340点

満点のテストで、12月末にテストの結果が発表になる。そうした結果をふまえて、1月中旬に志望大学に、学科の希望を3つまで書いて資料を提出する。

もちろん、生徒たちはなんとか合格したいので、自信のある生徒を除くと、競争率の低い学科を選びがちになる。その結果、本人の志望と関係のない学科へ入学することが少なくないらしい。また、16科目のテストはあまりに教科の数が多いというので、来年度から科目をへらすことになりそうだと聞いた。さらに、合格決定にあたって当該大学で実施する論文や面接の比重を増し、共通テストの結果だけで合否が決まらないようにしたいと語っている教授の声もあった。

したがってこれから先、大学入試テストの改善が進むのであろうが、それにしてもドクソシルそのものは、当分の間なくならないように思う。

いくつかの資料から試算すると、現在、高卒の初任給は13～14万ウォン（約26,000～28,000円）程度だが、大学卒は30万ウォン（60,000円）となり、大学卒の収入は高卒の2倍を超える。そのうえ、ロッテや大宇、現代などの一流企業は、ソウル、高麗、延世などの一流大学からエリート社員を採用するので、社会的な達成を望む生徒は、なんとしてもよい点数を取って、トップの大学へ入りたいと願う。そうした土台が残っているのであるから、ドクソシルという形態はなくなりにくいのであろうが、それにしても明け方まで小さなスペースに籠もり、勉強している生徒の心身共の健康が気がかりとなった。といっても日本の子どもたちも、小学校のうちから学習塾通いをしている。そう考えると、韓国のドクソシルを批判する権利は、日本人にはないように思った。

いずれにせよ、こうした高校生活を見て、ソウルの子どもたちは少しでも早く受験勉強を始めようと、小学校高学年のうちから家庭学習を始めている。

6. 子どもの幸福感をめぐって



(提供/オリオンプレス)

子どもたちの勉強ふりと、その背景でもあるひとりひとりの子が描いている自分の「進路」は、国によってかなりの違いがあることがわかってきた。こうした状況をふまえて、

最後にそれぞれの都市の子どもたちのしあわせ感を見てみることにしよう。どこに住む子どもたちが最もしあわせなのだろう。

⊗⊗ 起床から就寝まで ⊗⊗

まず表33は、1日のどの時間が子どもにとって楽しいかを表の下部に示した尺度でたずね、「とても楽しい」と答えた者の割合を示したものである。表中の数字は1位から5位までを示したもののだが、1日のうちで子どもが楽しいと思う時間帯はどこでもよく似ていて、「友だちと遊んでいるとき」や、「体育」など体を動かしているとき、逆に「眠っている間」であることがわかる。また項目によっては、他の都市をひき離して楽しいと反応されている時間があるが、これを拾ってみると、

日本	○昼休みや放課後友人と遊ぶとき ○テレビを見ているとき
ソウル	○算数や体育の時間 ○昼休み友人と遊ぶとき ○マンガを読んでいるとき ○両親とのおしゃべり ○夜ふとんに入るとき、眠っている間
タイペイ	○夜ふとんに入るとき
アメリカ	○テレビを見ているとき

となって、とくにソウルの子どもの反応が面白い。算数の時間を好む子は24.0%と、たとえば日本の子どもの11.2%の2倍以上であり、前章までに見てきたソウルの子どもの勉強好き(?)が、はからずも現れている。したがって「昼休み」「マンガ」「眠っているとき」に対する強い反応も、その猛勉強の陰

のように思われる。また唯一「両親とのおしゃべり」が好まれているのも、家族のきずなの堅固さを思わせるものがある。

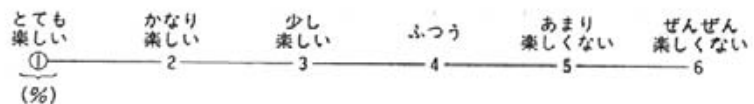
反対に子どもにとって灰色なのは、朝の時間と「勉強」である。これは国を問わずほぼ共通の傾向である。

表33 1日の楽しさ

(%)

	東京・仙台・岡山	ソウル	台北	シアトル・ヒューストン
朝、目がさめたとき (ふとんの中で)	5.1	9.6	11.1	8.5
朝食のとき	8.0	14.6	11.3	15.8
朝、授業の始まる前	10.3	15.4	10.1	10.3
算数の時間	11.2	24.0	14.4	17.7
体育の時間	③ 50.6	① 60.4	① 55.4	④ 42.6
学校で給食を食べているとき	⑤ 32.6	37.2	22.3	⑤ 41.4
昼休み、友だちと遊んでいるとき	② 60.4	② 58.4	⑤ 34.0	③ 48.4
家に帰ってから、友だちと遊ぶとき	① 65.5	⑤ 55.0	28.0	① 52.8
家でマンガを読んでいるとき	32.5	42.6	24.2	13.6
夕食のとき	22.1	30.3	30.0	26.8
夕食後、お父さんやお母さんと話しているとき	24.2	④ 55.3	④ 36.3	18.6
夕食後、テレビを見ているとき	④ 40.1	33.0	26.5	37.5
宿題や勉強をしているとき	3.3	9.0	10.1	7.0
夜ふとんの中に入ったとき	20.0	48.9	③ 44.5	24.1
夜眠っているとき	23.8	③ 57.0	② 44.6	② 50.4

○は順位



🍏🍏 食事のとき空腹か 🍏🍏

表34は、朝食と夕食のテーブルに、子どもたちがおなかをベコベコにして座るかどうかを見たものだ。この項目はすでに日本の調査で、子どもの幸福感や、子どもがよい生活環境の中に置かれていて、遊びを中心とした子どもらしい暮らしがあるかどうかと深く関わっていることを見いだしてきた。

まず朝食のテーブルに「いつも」空腹で座る子は、日本で10.2%、ソウル6.7%、台北12.5%、アメリカ22.9%と、日本の数値はソウルと共に低い。アメリカの子の活力に比べて日本の子どもたちは、やや不健康な状態ではないか。

次に夕食の数値を見ると、ここでも日本の

子はいつも空腹な子が16.2%、ソウル11.7%、台北32.9%、アメリカ40.0%と、またソウルと共に日本の子どもたちの食欲不振ぶりが気になってくる。ちなみに「いつも・わりと」空腹を合わせてみても、日本の子は51.2%と半分くらい、アメリカの子は77.9%と元気である。夜ふかし、テレビ、勉強のしすぎ、遊び時間の不足、過剰な栄養などその原因はいつも考えられるが、とにかく日本の子どもたちが、ソウルと共に他国に比べ健康な生活を送っていないことは確かだろう。なお表35に示したように、どの都市も男子のほうが食欲は旺盛である。

表34 食事のとき空腹か

	東京・仙台・岡山	ソウル	台北	シアトル・ピューストン
朝食				
いつも空腹	10.2	6.7	12.5	22.9
わりと空腹	33.6	22.9	16.7	36.6
あまり空腹でない	50.3	53.6	61.2	28.9
ぜんぜん空腹でない	5.9	16.8	9.6	11.6
夕食				
いつも空腹	16.2	11.7	32.9	40.0
わりと空腹	35.0	33.9	24.0	37.9
あまり空腹でない	40.9	41.3	38.2	16.0
ぜんぜん空腹でない	7.9	13.1	4.9	6.1

表35 朝は空腹か×性差

(%)

		東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン
男子	空腹 いつも	13.3	8.1	14.0	26.8
	わりと	35.8	24.2	18.4	35.4
	小計	49.1	32.3	32.4	62.2
女子	空腹 いつも	7.1	4.8	11.0	19.1
	わりと	31.3	21.3	14.7	37.4
	小計	38.4	26.1	25.7	56.5

🍷 灰色の気分 🍷

時として人はふしあわせ感にとらわれることがある。専門家はそれを抑うつ状態と表現し、素人はそれに「おちこむ」という言葉を使おうとするが、いずれにせよ、ハッピーでない状態には違いない。表36は子どもたちの中にあるこうしたグロウミーな気分を見ようとしたものだ。表が示すように、6つの項目(アメリカは親のことをたずねる項目を削除してほしいと要請があり5項目)のうちアメリカの子の反応は、実に3項目で最大値が示されている。

中でも群を抜いて大きい値は「学校へ行きたくない」で、肯定率は48.2%にも達している。友だちから嫌われているとは思わないが「先生がかわいがってこない(20.3%)」

「毎日がつまらない(26.3%)」という反応は、痛ましい感じがする。他の国での特徴は、タイペイの子どもたちのゆったりしたしあわせ気分と、日本の子どもたちでは「毎日がつまらない」と思っている子が最小(9.0%)な点が目につく。

また表37は、こうした抑うつ状態と成績との関連を見たものだ。どの国の子どもたちも成績とこうした気分の有無は、大きな関連をもっている。ソウルのように成績が悪くなるほど抑うつ気分が増加する場合もあるが、多くは「上位」と「中位」では差がないが、「下位」のグループが一挙に抑うつ気分を色濃くしているのが特徴だ。

表36 灰色の気分

(%)

	東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン
朝、学校へ行きたくない	17.3	17.8	9.2	48.2
友だちから嫌われている	11.0	12.8	8.6	11.3
先生がかわいがってくれない	13.4	14.7	7.2	20.3
親がかわいがってくれない	6.9	9.3	6.3	*
毎日がつまらない	9.0	12.1	17.8	26.3
私は運がわるい	22.5	16.8	20.1	16.5

* アメリカ側の要請により削除

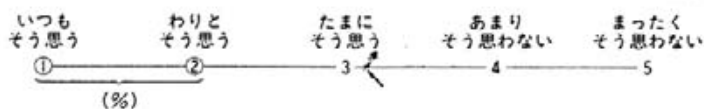


表37 灰色の気分×成績

(%)

気分	東京・仙台・岡山			ソウル			タイペイ			シアトル・ヒューストン		
	上位	中位	下位	上位	中位	下位	上位	中位	下位	上位	中位	下位
朝、学校へ行きたくない	3.7	5.5	12.5	4.6	7.4	11.8	3.0	5.5	13.5	19.7	29.6	36.1
友だちから嫌われている	5.0	3.0	7.0	2.3	4.5	9.0	3.5	3.4	5.6	2.6	4.2	6.3
先生がかわいがってくれない	7.4	6.1	12.2	3.2	3.2	9.5	3.0	2.5	5.6	9.3	11.9	15.0
親がかわいがってくれない	2.6	2.4	5.7	1.4	4.1	8.3	2.5	2.2	5.6	—	—	—
毎日がつまらない	4.2	3.9	6.5	3.7	6.4	7.1	9.0	9.0	18.0	13.7	13.2	19.4
私は運がわるい	10.5	10.2	16.3	4.0	6.6	12.4	10.9	12.2	23.6	8.8	6.3	8.7
平均	5.6	5.2	10.0	3.2	5.4	9.7	5.3	5.8	12.0	(10.8	13.0	17.1)

* 5項目の平均

子どもたちのしあわせ感

前に見てきた灰色気分の有無も、いわばしあわせ感に接近してみるためのものであったが、次にもっと直接、子どもたちにしあわせ感の強さを聞いてみた(表38中のアメリカの数値は、尺度が異なるので、必ずしも直接の比較はできないと思われる)。

表の示すように「とても・かなり」しあわせな子は

日 本	57.7%
ソ ウ ル	76.6%
タイペイ	80.3%

と、日本の子は他のアジアの都市よりしあわせ感が低い点が何とも気になってくる。残念ながらアメリカの尺度は5段階尺度(アメリカ側の要請で)であるため直接の比較はでき

表38 しあわせ感

(%)

	調査地	しあわせ			ふつう くらい	ふしあわせ		
		とても	かなり	やや		やや	かなり	とても
男子	東京・仙台・岡山	36.0	16.8	14.0	24.9	3.3	1.7	3.3
	ソ ウ ル	53.4	20.6	11.1	9.0	2.7	1.0	2.2
	タイペイ	54.1	22.1	9.1	12.9	1.2	0.0	0.6
	シアトル・ヒューストン	(25.5	34.6)		26.8	(6.3	6.8)	
女子	東京・仙台・岡山	44.5	18.0	11.9	19.4	3.4	0.8	2.0
	ソ ウ ル	62.7	17.1	8.2	8.6	2.3	0.0	1.1
	タイペイ	58.1	26.2	5.2	7.0	1.7	0.9	0.9
	シアトル・ヒューストン	(33.8	34.8)		24.1	(2.8	4.5)	
全体	東京・仙台・岡山	40.3	17.4	12.9	22.1	3.3	1.3	2.7
	ソ ウ ル	57.6	19.0	9.8	8.8	2.5	0.6	1.7
	タイペイ	56.2	24.1	7.2	9.9	1.5	0.4	0.7
	シアトル・ヒューストン	(29.6	35.0)		25.3	(4.5	5.6)	

注) アメリカのみ尺度が異なる
I am (A) very happy (B) happy (C) somewhat happy (D) unhappy (E) very unhappy

ないものの、「ふしあわせ」と言っている子の割合は

日 本	7.3%
ソ ウ ル	4.8%
タイペイ	2.6%
アメリカ	10.1%

となり、アメリカの子が一番ふしあわせ感が強いように推測される。子どもらしい生活とは裏はらに、先に見た食卓の光景から暗示される家庭生活の荒廃（一部にせよ）が、このふしあわせ感を生み出しているのではなから

うか。

また表39は、しあわせ感を子どもの成績と進路別に見たものである。日本とソウル、タイペイではいずれも成績のよい子ほどしあわせ感が強く、大学進学を希望する子は、高校までの子よりしあわせ感が強いことが見いだされる。しかしアメリカの子はどの成績段階の子も、どのような進路を希望している子もしあわせ感にほとんど差がないのが特徴だ。人生とは、本当はそうでなければならないと思われる。

表39 しあわせ感と成績・進路（「とても・かなりしあわせ」の割合）

(%)

		東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・* ヒューストン
成 績	上 位	66.6	84.2	90.2	69.0
	中 位	60.0	76.2	87.5	64.0
	下 位	47.3	66.6	73.0	61.4
進 路	大 学	62.3	77.6	81.6	64.5
	高 校	50.4	63.7	69.4	58.1
	中 学	40.3	62.9	44.4	63.2

* very happyのみ

自己像との関わりで

しあわせ感と関連するものとして、次に子どもたちの自己像に接近してみよう。自己像が明るいか暗いか、ポジティブかネガティブかはしあわせ感の反映であると同時に、それは子どもたちの日常の行動の仕方の積極性にも大きな影響を及ぼすからである。自己像は、いわば行動の原点としての意味をもつもの

からである。

表40に掲げた自己像の各側面に特徴的な、アメリカの子どもたちの断然トップの自己像の明るさは一体どこから生まれてきたのだろう。これに巻末の集計表から「とても」に「わりとあてはまる」を加えた数値でみると、アメリカの子だけがあらゆる側面でパーフェ

クトに近い自己評価をしている。この数値を見ていたら、アメリカ人が何かにつけて「自分の町は〇〇の点で世界一だ」とか「自分は〇〇の点で偉大な（有名な）〇〇家だ」などと口ぐせのように言うのを思い出した。社会の若さか活力か。その国民性は何ともうらやましい限りである。それにひきかえ日本の子は暗い。アメリカの子は別として、ソウル、タイペイの子と比べても「スポーツがうまい、勉強ができる、正直、親切」の4項目で、3国の間でも最低の値を示している。

次に自己像の性差を見たのが表41である。わかりやすくするために次の表42を作成した。表15と同じく、男子と女子の（とてもあてはまる）数値の比を算出してある。表が示すように、最も値の高いのは（つまり男子と女子の間に自己像の差があり、かつ男子の自己像がポジティブなのは）日本で、最も差のないのはアメリカである。とくにアメリカは平均値128と、男子は女子の1.3倍ほど自己像がポジティブだが、いわば男性役割である「スポーツがうまい」「勇気がある」を除くとどの

項目も比較的近似していて、男女のとり扱いに差がなく、社会的地位に不当な差別のないアメリカ社会の両性のあり方がよく表れている結果である。それに比べると、女子の自己イメージが一番ひずみをもっているのは、日本である。日本の男子は女子の1.6倍もよい自己イメージをもっており、「スポーツ」「勇気」を除いた平均値をとってみても、どの国より性差が見られる。日本の女子たちがなぜこんなに低い自己イメージをもっているのか。考えて見ると最近発表される国際比較の調査データで、日本の女の子は常に将来へのアスピレーションが低く、職業志向率が低いことを思い出すし、今回のわれわれの調査結果（第5章）にもそれが見いだされたことに思い当たる。残念なことである。

また項目間で性役割のみられるものを拾い出してみると、下部のようになる。これから見ても最も性役割が明確なのは日本、逆にほとんど性役割のみられないのがアメリカ、という結果となる。

表40 子どもの自己像

(%)

	東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン
スポーツのうまい子	15.7	25.1	20.7	37.5
友だちから人気のある子	8.2	7.1	12.9	28.0
よく勉強のできる子	4.5	8.0	6.2	34.7
正直な子	8.8	18.0	13.4	29.3
親切な子	10.8	20.0	11.9	34.0
よく働く子	14.0	24.7	12.4	36.7
勇気のある子	15.8	23.9	14.8	39.6

「とてもあてはまる」割合

表41 子どもの自己像×性差

(%)

		東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン
男 子	スポーツのうまい子	21.6	31.5	31.8	50.7
	友だちから人気のある子	10.7	8.3	14.3	29.7
	よく勉強のできる子	5.9	9.0	7.7	33.1
	正直な子	10.6	18.8	13.4	30.9
	親切な子	11.8	20.1	11.7	33.3
	よく働く子	15.6	25.2	12.0	38.4
	勇気のある子	18.0	25.7	18.1	48.9
女 子	スポーツのうまい子	9.7	17.0	9.7	23.6
	友だちから人気のある子	5.7	5.7	11.4	26.6
	よく勉強のできる子	3.0	6.7	4.7	36.5
	正直な子	7.0	17.0	13.5	27.7
	親切な子	9.8	19.8	12.1	35.1
	よく働く子	12.3	24.1	12.8	35.0
	勇気のある子	13.5	21.6	11.5	30.1

「とてもあてはまる」割合

表42 自己像の性差指数と性役割
(とてもあてはまる%を使用して)

	東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン
スポーツのうまい子	223	185	328	215
友だちから人気のある子	188	146	125	112
よく勉強のできる子	197	134	164	91
正直な子	151	111	99	112
親切な子	120	102	97	95
よく働く子	127	105	94	110
勇気のある子	133	119	157	162
平均	163	129	152	128
スポーツのうまい子	◎	○	◎	◎
友だちから人気のある子	○	○	○	×
よく勉強のできる子	○	○	○	×
正直な子	○	×	×	×
親切な子	×	×	×	×
よく働く子	○	×	×	×
勇気のある子	○	×	○	○

$$* \text{指数} = \frac{\text{男子}}{\text{女子}} \times 100$$

性役割
 × ~120
 ○ 121~200
 ◎ 201~

女性のあるり方について

これまでの結果にも部分的に表れていたが、ある社会の近代化の一つの指標は、人びとが性役割からどの程度自由になったかではなかろうか。そのうち結婚後の女性のあるり方は、5年生ともなれば自分の近い将来のあるり方として、子どもたちにも受け止められているのではなかろうか。

この点を見ようとしたのが表43である。設問は男子と女子とで多少違っていて、その文章を表の下に掲げてある。表が示すように「働く母親でありたい」とする子の割合は、さすがにアメリカの女子で80.8%にも達し、台北の3割台、日本とソウルの4割台を大き

く引き離している。

ここで他の性役割とも関連させて地域差を検討してみた結果が、表44、表45である。表44のソウルを例にとれば、この中で最も特徴があるのは住宅地にあるB校で、手伝い率が他校と比べて低く、かつ女子で働く母親になりたい子が54.6%と多く、教育熱の高い地域であることがわかる。しかし全体としては思ったより差がなく、これは表45のアメリカの校区、たとえばヒューストンの山手と下町をとってみても同様である。むしろ表43に示したように、地域や学校差より都市（国）の差のほうがはるかに大きいことがわかる。

表43 女性のあるり方

	東京・仙台・岡山	ソウル	台北	シアトル・ヒューストン
(女子)働く母親でありたい	42.8	48.2	33.3	80.8
(男子)働く母親を妻にしたい	47.7	49.0	15.7	64.9

(1) 女の人だけこたえてください。

1. 結婚しても（お母さんになっても）しごとをつづけていく
2. 結婚したら（お母さんになったら）しごとをやめて主婦になる

(2) 男の人にききます。どんな人と結婚したいですか。

1. 結婚しても（お母さんになっても）しごとをつづけていく人と
2. 結婚したら（お母さんになったら）しごとをやめてくれる人と

表44 ソウルの校区

(%)

		(女子) 働く母親に なりたい	(男子) 働く母親を 妻にしたい	血洗い	夕食の 手伝いを する
A	古くからの高級住宅地 (217名)	41.1	51.0	32.5	27.4
B	ソウル市内でアパートの 林立する住宅地 (472名)	54.6	48.9	25.0	17.7
C	ソウル郊外の住宅・商店 の混合地帯 (303名)	46.1	47.6	32.6	24.8
D	ソウル市内の商店街 (453名)	47.8	49.0	34.4	24.6

表45 アメリカの校区

(%)

		(女子) 働く母親に なりたい	(男子) 働く母親を 妻にしたい	血洗い	夕食の 手伝いを する
	シアトル (10校 469名)	83.0	67.4	47.7	29.6
	ヒューストン (4校 482名)	78.2	63.3	44.1	29.2
	下町 (2校 223名)	78.4	65.2	45.9	31.2
	山手 (2校 259名)	78.2	61.7	42.8	27.7

7. 終わりに代えて



⊗⊗ 子どもたちの成長欲求 ⊗

東京、仙台、岡山、ソウル、タイペイ、シアトル、ヒューストンと、7つの都市の子どもたちの学習とその環境に関わるデータをつぶさに検討してきた本レポートも、しめくくりの章に入った。われわれは7つの都市の子どもたちが、かなりの共通した成長の姿を示しながらも——すなわち現代の日本の子どもたちの中にある問題点を共有しながらも、それぞれの都市でそれぞれに特徴的な成長ぶりを見せていることを見てきたわけである。それらのデータの中で浮かび上がった現代の日本の子どもたちの成長の姿は、成熟社会と言われている、すなわち社会自体が若さを失って精神的な活力に衰えの見えるはじめた日本社会の姿をそのまま反映した、勢いの失われた姿であったように思われる。

かつて日本社会がもっていたようなおだや

かさや暖かさはタイペイの子どもたちの暮らしの中にあり、やる気とそれを支える止めどもない活力は今もソウルの子どもたちがもっている財産である（巻末の集計表④にもこれが表れている）。また家庭の姿は荒れ、子どもたちにとっては必ずしもいごちのいい場ではなくなっているかに思えるが、しかしそこには性役割をはじめとする伝統的な社会のしがらみからはかなり十分に自由になって、自分自身の能力を頼りに明るい自己像の下で、子ども時代を楽しみ生き生きと将来への準備をしているアメリカの子どもたち。それらに比べると日本の子どもたちとその環境は、あらゆる意味で特色がなさすぎると思うのは、われわれだけだろうか。

ちなみにこの点を示す最後のデータとして、表46、表47を掲げたい。子どもたちが「早く

おとなになりたい」か、「いつまでも今のような子どものままがいい」か、「もっと昔(幼稚園時代)に戻りたい」かは、その社会の子どもの成長欲求の差としてとらえることが可能だろう。さて7つの都市の子どもたちは今どんな成長欲求をもっているのだろうか。表46に掲げたように、ソウルの子どもは「もっと昔に戻りたい」(42.8%)、タイペイの子は「早くおとなになりたい」(50.4%)、そしてアメリカの子は「いつまでも子どものままでいたい」(71.8%)という反応を示している。

ソウルの子は世界で今一番激しく勉強し、世界の国々の国力へ近づくべく追いつけている韓国の社会的期待の中で、疲労を感じているかに思える。しかしそれはまた十分な活力に支えられた疲労であり、それが激しいデッドヒートを演じながらも「もっと小さい頃の

自分に戻りたい」というつぶやきになって表れたのだろう。そしてアメリカの子どもの現在の生活は、何ととっても広い土地と陽気な人びとの作り出す自由な社会の中で、その家庭の中には不幸の影があっても、かなり十分に子ども時代を楽しめる性質のものなのであろう。

そしてタイペイの子どもたちは、一昔前の日本にも似て、せまい国土の中から外の世界へ目を向けて生きようとしている。中国大陸との微妙な関連も人びとの心に何らかの構えを生み出していることも想像される。

しかし日本の子どもたちは、そのどれでもない。成熟社会の中でわれわれおとなたちが、ともすれば将来への目標を失いはじめているように、われわれの子どもたちもまたそうなのかもしれないのである。

表46 成長欲求

(%)

	東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン
早くおとなになりたい	32.8	34.4	50.4	21.8
子どものままがいい	34.9	22.8	12.4	71.8
もっと昔に戻りたい	32.3	42.8	37.2	6.4

表47 成長欲求×性差

(%)

	東京・仙台・岡山	ソウル	タイペイ	シアトル・ヒューストン	
男子	早くおとなになりたい	30.4	31.1	47.9	21.6
	子どものままがいい	41.3	24.9	15.9	71.7
	もっと昔に戻りたい	28.3	44.0	36.2	6.7
女子	早くおとなになりたい	35.2	38.8	53.1	22.2
	子どものままがいい	28.2	19.9	8.8	71.6
	もっと昔に戻りたい	36.6	41.3	38.1	6.2